第 209 回 誘電・絶縁材料技術委員会 議事録 ~~(案)~~

１．日時　　2012 年 5 月 29 日(水)　13:30～17:00
２．開催場所　　朱鷺メッセ 202 会議室
　　〒950-0078 新潟市中央区万代島 6 番 1 号
３．出席者　　(順不同，敬称略，○：出席，×：欠席)

幹事団

長尾委員長(豊橋技科大)	○	田中(康)幹事(東京都市大)	○	関口幹事(住友電工)	○
高橋幹事補佐(電中研)	○	今井幹事補佐(東芝) 記	○		

１号委員

岡下委員(昭和電線)	○	岡本委員(富士電機)	×	小林委員(日立製作所)	○
平野委員(東芝) 代理 今井	○	田中委員(ビスキャス)	○	中坊委員(日新電機)	×
菱川委員(ﾊﾝﾂﾏﾝ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ)	×	近藤委員(日本ｶﾞｲｼ)	×	穂積委員(豊橋技科大)	×
本城委員(三菱電線)	×	武藤委員(三菱電機)	×	千綿委員(日立電線)	○
蔵田委員(明電舎)	×				

２号委員

池田委員(原子力安全基盤機構)	○	岩本委員(東工大)	×	加藤委員(新潟大)	○
永田委員(兵庫県立大)	×	江原(東京都市大)	×		

ISEIM 2014 関係者

金子 先生 ISEIM 2014 Vice Chair (新潟大)	○
布施 様 ISEIM 2014 Secretariat, 次期幹事補佐 (電中研)	○

オブザーブ委員

田中(祀)委員(早大)	×	本間委員(電中研)	×

４．提出資料

番号なし　第 208 回 誘電・絶縁材料技術委員会 議事録 (案)
DEI-209-1　電気学会 誘電・絶縁材料技術委員会 委員名簿
DEI-209-2　2013 年度 誘電・絶縁材料技術委員会の幹事団の交代について
DEI-209-3　誘電・絶縁材料技術委員会の構成と幹事団の交代について
DEI-209-4　A 部門編修委員会
DEI-209-5　第 8～10 回 新機能・高性能有機デバイス応用のためのナノ材料・構造制御調査専門委員会 議事録
DEI-209-6　電力機器の革新的診断技術の現状と将来展望 調査専門委員会 第 2 回議事録
DEI-209-7　第 12 回 先端複合ポリマーナノコンポジット誘電体の応用技術 調査専門委

員会 議事録
DEI-209-8　調査専門委員会フォローシート（2013 年度計画）
DEI-209-9　平成 25 年度 誘電・絶縁材料研究会，技術委員会，その他行事予定（最終案）
DEI-209-10　IEEE DEIS Japan Chapter 協賛のエビデンス
DEI-209-11　電気学会 研究会企画連絡シート(会場：秋田大学，テーマ：トリー，トラッキング，有機薄膜，絶縁一般)
DEI-209-12　表彰委員会名簿および投票結果まとめ
DEI-209-13　研究会における発表の審査結果(経過報告)
DEI-209-14　第 44 回 電気電子絶縁材料システムシンポジウムについて
DEI-209-15　ISEIM 2014 について
DEI-209-16　2014 INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON ELECTRICAL INSULATING MATERIALS 開催提案書(案)
DEI-209-17　2014 International Symposium on Electrical Insulating Materials (ISEIM 2014) First Call for Papers
DEI-209-18　新潟 コンベンションセンター TOKI MESSE(朱鷺メッセ)

５．議事内容

5-1. 議事録の確認・承認（今井幹事補佐）

第 208 回 誘電・絶縁材料技術委員会 議事録(案)の確認を行い、承認された。

5-2. 名簿の確認（高橋幹事補佐）

資料DEI-209-1に基づき､委員の所属等について確認を行った｡2号委員であった田中(祀)委員(早稲田大)，本間委員(電中研)は、調査専門委員会の解散により、オブザーバー委員としている。

5-3. 2013 年度 誘電・絶縁材料技術委員会の幹事団の交代について（幹事団）

資料 DEI-209-2 に基づき、下記の幹事団交代について審議を行い、承認された。

- 委員長　現在：長尾先生(豊橋技術科学大)　→　新任：田中先生(東京都市大)
- 幹事　現在：田中先生(東京都市大)　→　新任：池田氏(原子力安全基盤機構)
- 幹事補佐　現在：高橋氏(電力中央研究所)　→　新任：布施氏(電力中央研究所)
- １号委員　長尾先生(豊橋技術科学大)は１号委員に就任

5-4. 誘電・絶縁材料技術委員会の構成と幹事団の交代について（高橋幹事補佐）

資料 DEI-209-3 に基づき、当技術委員会の構成について議論を行い、下記のように取り決めた。

- 委員長の交替について
  - 委員長の任期は 3 年を 1 期とし、最長で 2 期までとする。
  - 委員長の交代次期は、3 月とする。
  - 委員長退任者は、最低 1 期は技術委員会 1 号員に就任する。但し、1 号委員の人数が電気学会規約(15 名まで)を上回る場合は、相談役として新任委員長をサポートする。

- 幹事・幹事補佐の交替について
  - 幹事・幹事補佐は 2 名ずつとし、各 1 名は産業界から、各 1 名は大学・研究機関から就任することとする。
  - 幹事の交代は、委員長交代の 1 年後、幹事補佐の交代は委員長交代の 2 年後とする。
  - 別表 1 に記載の産業界からの幹事・幹事補佐のローテション案は、参考扱いとする。
- 1 号委員の交代について
  - 1 号委員の任期は 3 年を 1 期として、最長で 2 期までとする。原則としては 2 期までだが、事情により 2 期以上就任する場合は、1 ヶ月程度の休止期間を設ける。
  - 1 号委員としての任期は、各企業から選出されている人の在任期間で判断する。各企業の都合などにより 1 号委員が交代した場合は、前任者の在任期間はリセットされる。
  - これまでに当技術委員会に参画していなかった企業から、入会の申し出があり、1 号委員の定員規約から新規入会者が参画できない場合、欠席の多い 1 号委員を相談役(あるいは、1 号オブザーブ委員)とし、新規入会者が当技術委員会に参画できる措置を検討する。

- A 部門編集委員の交代について
  - A 部門編集委員は 2 年を 1 期とし、1 期ごとに、当技術委員会に参画している機関の持ち回りとする。
  - 2 年任期の 1 年目終了時に、次の候補を選出する。
  - 次回(第 210 回)の技術委員会で、次の A 部門編集委員候補を選出する(過去の A 部門編集委員とその在任期間などの資料を提出する)。
  - 別表 1 に記載の産業界からの A 部門編集委員のローテション案は、参考扱いとする。

5-5. A 部門編修委員会（池田委員）

資料 DEI-209-4 に基づき、第 171 回 A 部門編集委員会での議事が報告された。

- 編集委員について
  - 2013 年度(平成 25 年度)も継続して、池田委員が A 部門編集委員を務める。
  - 2014 年(平成 26 年)3 月に交代となるため、当技術委員会において次の A 部門編集委員候補者を決める必要がある。
- 絶縁材料シンポジウム特集号について
  - 2014 年(平成 26 年)3 月号に、2012 年開催の絶縁材料シンポジウムの特集号を掲載予定。
  - 特集号(2014 年 3 月号)の会告原稿は、2013 年 3 月号に掲載済みで、論文投稿も 2013 年 3 月 29 日に締め切り済み。
  - 2015 年(平成 27 年)2 月号に、2013 年開催の絶縁材料シンポジウムの特集号を掲載予定。

- 特集号(2015 年 2 月号)の会告原稿は、2013 年 11 月 20 日となっている。

➢ 2013 年(平成 25 年)編集計画について

- ニュースレターの記事として調査専門委員会レポートがあり、2013 年 8 月号に「先端複合ポリマーナノコンポジット誘電体の応用技術調査専門委員会」の活動結果が掲載される予定となっている。
- 同じ調査専門委員会レポートにおいて、2013 年 11 月号に「屋外用ポリマー絶縁材料の性能評価・改質技術調査専門委員会」の活動結果が掲載される予定となっている。
- 同じ調査専門委員会レポートにおいて、2014 年 2 月号に「アジア地区における有機誘電体・導電性電気電子材料研究の最前線に関する調査専門委員会」の活動結果が掲載される予定となっている。

5-6. 新機能・高性能有機デバイス応用のためのナノ材料・構造制御 調査専門委員会 第 8～10 回 議事録の報告（加藤委員）

資料 DEI-209-5 に基づき、新機能・高性能有機デバイス応用のためのナノ材料・構造制御 調査専門委員会 第 8～10 回 議事録が報告された。

5-7. 電力機器の革新的診断技術の現状と将来展望 調査専門委員会 第 2 回議事録の報告（池田委員）

資料 DEI-209-6 に基づき、電力機器の革新的診断技術の現状と将来展望 調査専門委員会の議事録が報告された。技術伝承を目的とした電力設備の絶縁診断 調査専門委員会との差別化を図りたいとのことであった。

また、当技術委員会から、絶縁材料シンポジウムや ISEIM 2014 において、MT 法による受配電盤の劣化診断法(三菱電機 岡澤幹事)のデモ展示の検討依頼があったことを、池田委員長から伝えてもらう。

5-8. 第 12 回 先端複合ポリマーナノコンポジット誘電体の応用技術 調査専門委員会 議事録の報告（今井幹事補佐）

資料 DEI-209-7 に基づき、第 12 回 先端複合ポリマーナノコンポジット誘電体の応用技術 調査専門委員会 議事録が報告された。第 12 回委員会が最終回で、解散済みである。

5-9. 調査専門委員会活動状況の確認（田中幹事）

資料 DEI-209-8 に基づき、調査専門委員会活動状況の確認を行なった。

➢ 技術伝承を目的とした電力設備の絶縁診断

- 2013 年 5 月 15 日に委員会を開催済み。
- 2013 年 6 月に幹事会，7 月 18 日に次回委員会を開催予定。

➢ インバータ駆動モータコイルの絶縁評価法

- 2013 年 5 月 10 日に、第 1 回委員会を開催済み。
- 2013 年 8 月 23 日に、次回委員会を開催予定。

➢ 電力機器の革新的診断技術の現状と将来展望

- 2013 年 6 月 27，28 日に、次回委員会を開催予定。

- 2013 年 10 月 2 日，12 月 21 日に幹事会を開催予定。

➢ 新機能・高性能有機デバイス応用のためのナノ材料・構造制御
- 2013 年 5 月 23 日に、委員会を開催済み。
- 2013 年 7 月 4，5 日に、次回委員会を開催予定。

➢ アジア地区における有機誘電体・導電性電気電子材料研究の最前線に関する
- 2013 年 5 月 31 日，8 月 8 日に、委員会を開催予定。
- 2013 年 10 月に最終回委員会を開催予定。
- 解散後、2013 年 11 月に、整理委員会を立ち上げ予定。

➢ 先端複合ポリマーナノコンポジット誘電体の応用技術
- 技術報告単行本を作成中。

➢ 屋外用ポリマー絶縁材料の性能評価・改質技術
- 技術報告を作成中。
- 前委員会の技術報告が未提出のため、状況を確認する必要がある。

➢ PEA 法による空間電荷分布測定の校正法標準化と応用測定の開発
- 技術報告を作成中(原稿は 7 割程度完成している)。

➢ 高分子材料と放射線の相互作用評価
- 技術報告を作成中(今年の夏中に完成させる)。

➢ 屋外用ポリマー絶縁材料の表面機能と長期性能
- 技術報告を作成中(編集作業中)。

➢ 高電界電気絶縁における電荷挙動と界面
- 技術報告は転載許諾等の問題から、現在見直し中。

5-10. 平成 25 年度 誘電・絶縁材料研究会，技術委員会，その他行事予定の確認（田中幹事）

資料 DEI-209-9 に基づき、平成 25 年度(2013 年度) 誘電・絶縁材料研究会，技術委員会，その他行事予定(1 次案)の確認を行った。

➢ 2013 年 5 月 31 に長野(信州大)で、研究会(テーマ：有機誘電体・導電性電気電子材料の最近の展開)を開催済み。発表は 9 件であった。
➢ 2013 年 5 月 29 日に、第 209 回技術委員会(今回)を開催済み。
➢ 2013 年 7 月 4, 5 日に新潟(佐渡，トキ交流会館)で、電子情報通信学会との連催で研究会(テーマ：有機ナノ材料・構造制御，デバイス応用，一般)を開催予定。
➢ 2013 年 9 月 6 日に、第 210 回技術委員会を、東京で開催することとする。
➢ 2013 年 9 月 12，13 日に開催の A 部門大会用に、幹事団で当技術委員会の紹介ポスターを作成予定。
➢ 2013 年 9 月に、第 210 回技術委員会を、東京で開催することとする。
➢ 2013 年 11 月に秋田(秋田大)で、電線・ケーブル技術委員会との共催研究会(テーマ：ケーブルシステムの絶縁技術，トリー，トラッキング)を開催予定。IEEE Japan Chapter の協賛とする。
➢ 2013 年 11 月 25～27 日に、第 44 回電気電子絶縁材料システムシンポジウムを開催予定。IEEE Japan Chapter の協賛とする。
➢ 2013 年 11 月 27～28 日に(第 44 回絶縁材料ンポジウムの後)、若手セミナーを開催予定。

- 2013 年 12 月に、研究会(テーマ：ナノコン，空間電荷)の開催を検討する。
- 2013 年 12 月に、研究会(テーマ：ポリマーがいし)の開催を検討する。本間委員長に開催の検討を依頼する。
- 2014 年 1 月に、電子情報通信学会との連催研究会(テーマ：有機材料・一般)の開催を検討する。
- 2014 年 1 月に九州地区で、放電技術委員会, 高電圧技術委員会との共催研究会(テーマ：真空放電，気体放電，液体放電，放電・高電圧・材料一般)の開催を検討する。
- 2014 年 2 月に東京で、電線・ケーブル技術委員会との共催研究会(テーマ：劣化診断，機器・ケーブル絶縁一般)の開催を検討する。
- 2014 年 3 月に東京で、研究会(テーマ：国際学会報告，学際分野，絶縁一般)の開催を検討する。
- 2014 年(平成 26 年)の全国大会シンポジウムでは、「新機能・高性能有機デバイス応用のためのナノ材料・構造制御」調査専門委員会から申請をする。
- 2013 年 7 月の ICSD および 10 月の CEIDP で、ISEIM 2014 の PR をする(Call for Papers を配布する)。

5-11. IEEE DEIS Japan Chapter 協賛について（今井幹事補佐）

資料 DEI-209-10 に基づき、当技術委員会による研究会の IEEE DEIS Japan Chapter 協賛の記録(エビデンス)について報告があった。

- 電気学会ウェブサイトの研究会一覧で、IEEE DEIS Japan Chapter が協賛しているにもかかわらず、「IEEE DEIS Japan Chapter 協賛」の記載がない研究会がある。
- IEEE DEIS Japan Chapter から、協賛のエビデンスとして、「IEEE DEIS Japan Chapter 協賛」の記載をしてほしいとの要望があった。
- 他の技術委員会との共催の研究会で、研究会のプログラム管理を他の技術委員会が行なう場合、「IEEE DEIS Japan Chapter 協賛」の記載を忘れてしまうことが多い。今後は、他の技術委員会と共催の場合も、他の技術委員会の担当者と調整して、記載してもらうようにする。

5-12. 研究会企画連絡シート（開催場所：秋田大）について（高橋幹事補佐）

資料 DEI-209-11 に基づき、2013 年 11 月に開催予定の研究会企画連絡シートの報告があった。

- 研究会テーマ、「トリー，トラッキング，有機薄膜，絶縁一般」となっているが、「トリー，トラッキング，有機薄膜，ケーブルシステム絶縁技術」とし、絶縁一般よりも具体的なテーマとする。
- 開催日は 2013 年 11 月 1 日で、場所は秋田大学とする。
- 論文公募締め切り日は 2013 年 8 月 30 日、プログラム学会誌掲載月は 10 月号、原稿執筆依頼日は 9 月 6 日、原稿締め切り日は 10 月 11 日を予定している。

5-13. 表彰委員会名簿および投票結果について（関口幹事）

資料 DEI-209-12 に基づき、表彰委員会メンバーの紹介と、2013 年 家田賞・矢作賞、2014

年 犬石賞の投票結果が報告された。投票結果は、下記の通りである。

- 2013 年 家田賞：清水教之 氏（名城大学）
- 2013 年 矢作賞：井上良之 氏（東芝三菱電機産業システム株式会社）
- 2014 年 犬石賞：Prof. J. Keith Nelson (USA)

田中幹事から、各受賞候補者に連絡し、第 44 回絶縁材料シンポジウム(家田賞，矢作賞)、ISEIM 2014 での予稿執筆と受賞講演の内諾を頂いた時点で賞を確定する。

5-14. 研究会における発表の審査結果について（関口幹事）

資料 DEI-209-13 に基づき、研究会における発表の審査結果(途中経過)が報告された。下記の 3 名が被推薦者として挙がっている。

- 開催日：2013 年 1 月 29 日，場所：九州大，テーマ：放電／高電圧／誘電絶縁材料
  DEI-13-25　刀根弘郎　「電界中におけるカーボンナノチューブ凝集体の挙動と静電配向かに及ぼす影響」
- 開催日：2013 年 2 月 13 日，場所：電気学会本部，テーマ：劣化診断・機器・ケーブル絶縁
  DEI-13-31　三坂英樹　「熱・放射線同時劣化したエチレンプロピレンゴムの評価」
- 開催日：2013 年 3 月 15 日，場所：東京都市大 渋谷キャンパス，テーマ：国際会議報告・学際分野・絶縁一般
  DEI-13-48　瀧沢肇　「高温・高分解型 PEA 測定装置の開発」

5-15. 第 44 回 電気電子絶縁材料システムシンポジウムについて（高橋幹事補佐）

資料 DEI-209-14 に基づき、第 44 回 電気電子絶縁材料システムシンポジウムの開催計画が報告され、下記を取り決めた。

- 会期は、2013 年 11 月 25 日(月)～27 日(水)とする。
- 場所は、豊橋・穂の国とよはし芸術劇場(アートスペース，創造活動室 A)とする。
- 家田賞受賞者の清水先生(名城大学)，矢作賞受賞者の井上氏(東芝三菱電機産業システム)に、田中幹事から、受賞の連絡をし、予稿執筆と受賞講演の内諾をもらう。
- 企画セッションの設置については、幹事団で協議する。
- テクニカルツアー，バンケットについては、豊橋技科大 穂積先生に相談する。布施次期幹事補佐から、人数などの情報を提供する。
- シンポジウムでは、1 , 2 号委員に座長をお願いする。担当セッションの希望があれば、田中幹事へ連絡する。また、座長は担当したセッションから、優秀な発表を選出する。
- 中部電気利用基礎研究振興財団に、助成金の申請をする。
- 若手セミナーを、11 月 27 日(水)午後～28 日(木)の日程で開催する。
- 実行委員会のメンバーは、日本ガイシ 井上さん，東芝 中村さん、早稲田大学 小松さん、豊橋技科大 村上先生とする。

5-16. ISEIM 2014 について（高橋幹事補佐，布施時期幹事補佐）

資料 DEI-209-15～17 に基づき、ISEIM 2014 の開催計画が報告され、下記を取り決めた。

- 会期は、2014 年 6 月 2 日(月)～5 日(木)とする。
- 会場は朱鷺メッセとし、2 階メインホール，中会議室 201，小会議室 202～204(3 会議室)を仮押さえ済み。
- スケジュールの概略は、下記とする。
  - 6 月 2 日　午前：準備　　午後：開会・オーラル発表
    夜　：Welcome party
  - 6 月 3 日　午前：オーラル発表　　午後：MVP・ポスター発表
  - 6 月 4 日　午前：オーラル発表　　午後：ﾃｸﾆｶﾙﾂｱｰ (or ポスター発表)
    夜　：Banquet
  - 6 月 5 日　午前：オーラル発表　　午後：ﾃｸﾆｶﾙﾂｱｰ (予備)
- Technical Co-sponsored by の「CIGRE SC D1」は削除する。
- Co-sponsored by に「Waseda University」を追記する。
- Supported by に「Niigata University」と「朱鷺メッセ コンベンションビューロー」を追記する。
- STEERING COMMITTEE の Members で、前回の ISEIM 開催時から、交代している 1 号委員もいるため再度確認する。
- INTERNATIONAL ADVISORY COMMITTEE に、新潟大 金子先生を追記する。
- INTERNATIONAL ADVISORY COMMITTEE への参加問い合わせについては、下記とする。
  - Dr. Bulinski(Canada)の状況について、遠山先生(沼津高専)に確認する。
  - Dr. Redy(元 JPS)に COMMITTEE への参加をお願いする。
  - 前回の ISEIM で COMMITTEE に参加して頂けなかった下記の人に、再度参加をお願いする。
    Prof. Guan Zhicheng (China)　Prof. E. Gockenbach (Germany)
    Prof. Dae-Hee Park (Korea)　Prof. Ja-Yoon Koo (Korea)
    Prof. G. Gubanski (Sweden)　Prof. K. Nelson (USA)

６．次回(第 209 回)技術委員会の開催

第 210 回 誘電・絶縁材料技術委員会は、2013 年 9 月 6 日(金)13:30 から、東京地区での開催とする。

－以上－